

こんしゅう れい はい ところ
今週のこゝば「**礼拝する所**」

せいしよ ふくいんしよ
《聖書》ヨハネによる福音書 4:5-42

しん でん
エルサレムの神殿

しんでん とうじ しゅう
エルサレムの神殿は、当時のユダヤ宗
きょうたいせい ちゅうしん
教体制の中心であり、シンボルでした。
きょうやくじだい さいしよ ころ かみ す
旧約時代の最初の頃は、神の住まいとし
まくや たみ
て幕屋がありました。イスラエルの民は、
ほうろう あいだ まくや い どう
放浪する間、この幕屋をかついで移動し
やくそく とち
ていました。ところが、約束された土地
はい ていじゅう
に入り、定住するようになると、ソロモ
おう しんでん た れいはい
ン王が神殿を建て、イスラエルの礼拝と
さいぎ ちゅうしん ばしよ
祭儀の中心の場所としました。このエル
しんでん ちゅうおうせいじよ よ
サレムの神殿が中央聖所と呼ばれるよう
ひと
になり、イスラエルのすべての人が、こ
しんでん ささ もの も こ
の神殿に捧げ物を持って来なければいけ
ぐんたい
なくなりました。バビロニアの軍隊によ
いちど しんでん は かい
って、一度はこの神殿が破壊されました
じ だい だいおう
が、イエスの時代には、ヘロデ大王によ
さいけん
って再建されていました。

しんしゅう
しかし、イスラエルの民衆にとって、
しんでん じ ぶん ち おも
この神殿は自分たちの血のにじむ思いで
だ ぜいぎん た
出した税金によって建てられたものであ
また どうじ しゅうきょう し はいたいせい
り、又、同時に、宗教による支配体制の

しとびと
シンボルでもありました。人々は、ロー
ぜいぎん ばら どうじ しんでんぜい おさ
マに税金を払うと同時に、神殿税も納め
また りっぱう
なければなりません。又、律法に
ねん さんど しんでん い
よると、年に三度エルサレムの神殿に行
まず みる
かなければなりません。貧しい民
しゅう
衆にとって、これはとてもつらい事とし
こと
た。

れい はい ところ
礼拝する所

わたし れいはい ば しよ
私たちは、礼拝する場所として、すぐ
きょうかい せいどう かんが わたし
教会の聖堂を考えます。しかし、私たち
かみ であ こと
は、いつでも、どこでも神と出会う事が
おんな
できるはずです。イエスがサマリアの女
い こと おな こと わたし
に言われた事も同じ事です。私たちは、
でき こと とお また
いろいろな出来事を通して、又、いろんな
ひと であ なか かみ であ
人との出会いの中で、神と出会っている
かみ であ き かい
のです。神との出会いの機会がたくさん
わたし かが
あるのに、私たちはそれを限られたもの
にしてしまっているのです。

いの たいせつ こと なに ねが こと
祈りで大切な事は、何か願う事をする
こと かみ よ みみ かなむ
事ではなく、神の呼びかけに耳を傾ける
こと かみ き かい わたし
事です。神は、いろんな機会に私たちに
よ
呼びかけているのです。

しじゅんせつだい しゅじつ ねん たぎの
四旬節第3主日A年（滝野）